

第3学年1組 国語科学習指導案

日時 令和元年10月7日(月) 5校時

授業者
学校司書

1 単元名 「論語」

2 単元の目標

- ・自分の生活と結び付けながら、「論語」の言葉を鑑賞しようとする。

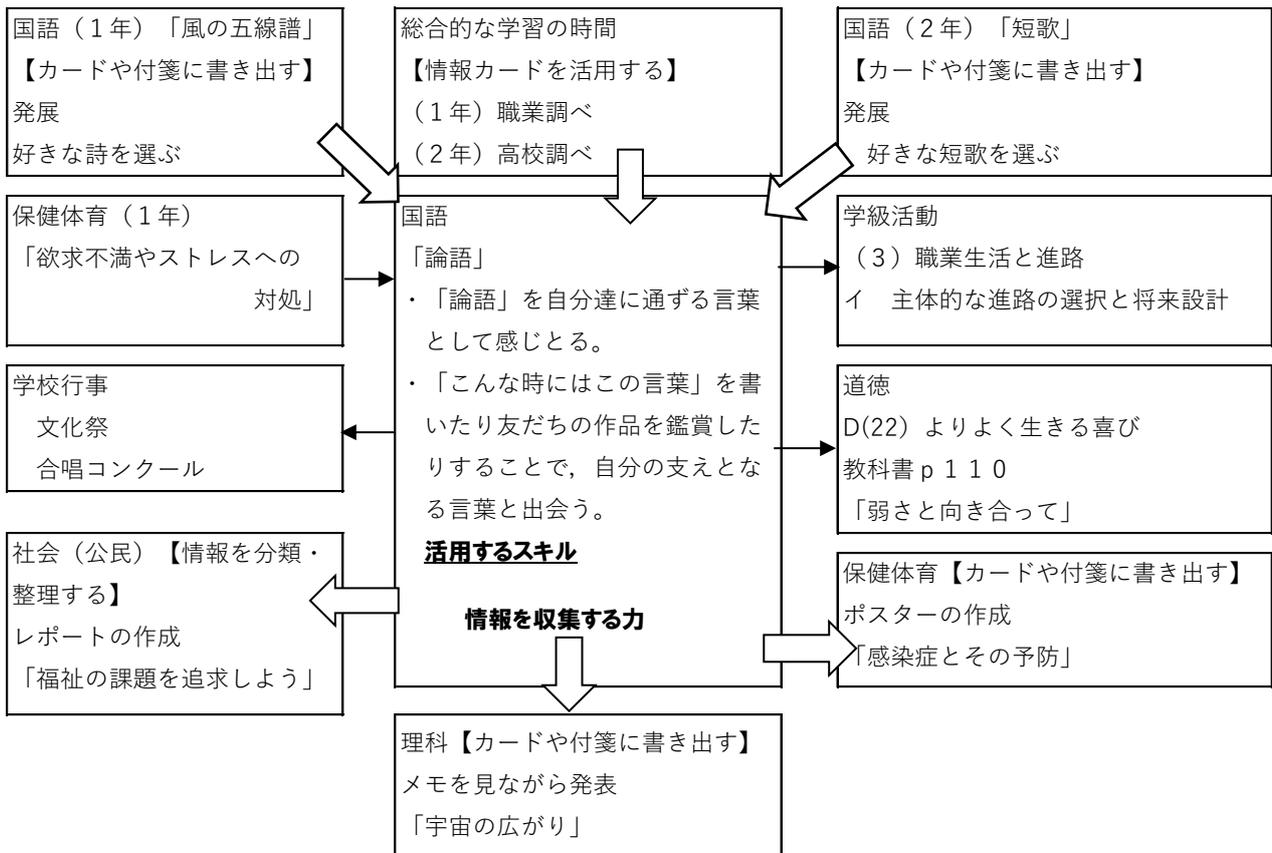
【国語への関心・意欲・態度】

- ・「論語」を実際の場面に照らし合わせ、具体的な場面を想起しながら現代を生きる自分達に通ずる言葉として「論語」を感じ取り、その言葉に対する自分の考えをもつ。 【読む能力】

- ・「論語」に表れたものの見方や考え方に触れることを通して「論語」の世界に親しむ。

【言語についての知識・理解・技能】

3 単元構成モデル



※ → 内容の流れ

⇨ スキルの流れ

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
自分の生活と結び付けながら、「論語」の言葉を観賞しようとしている。	「論語」を実際の場面に照らし合わせ、具体的な場面を想起しながら現代を生きる自分達に通ずる言葉として「論語」を感じ取り、その言葉に対する自分の考えをもっている。	①漢文の基本的な決まりを理解して「論語」を読んでいる。 ②「論語」に表れたものの見方や考え方に触れることを通して「論語」の世界に親しんでいる。

5 学習の基盤

○「論語」は孔子の死後、教えを受けた弟子たちが孔子やその門人たちの言行を集め、整理・編集したものである。「論語」の中には「己の欲せざる所は、人に施すこと勿かれ。」のように、生徒が意識せずに日常的に聞いたり使ったりしている言葉もあり、現代に生きる私たちにも通ずる考え方を読みとることができる。

本単元は、「読むこと」の指導事項「オ 目的に応じて本や文章などを読み、知識を広げたり、自分の考えを深めたりすること」と、【伝統的な言語文化と国語の特質に関する指導事項】「ア 伝統的な言語文化に関する指導事項（イ）古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書くこと。」に対応している。教科書に掲載されている5つの言葉はどれも生徒自身の生活に思い当たることがあったり、納得できる部分があったりする言葉であると思われる。よって教科書を学習する中で「論語」を「遠い時代の遠い国の言葉」という感覚から、「現代にも生きる身近な言葉」として感じることができるであろう。「論語」は生徒がこれからの人生を生きていくうえで自分の支えとなったり自分の生き方を振り返ったりすることのできる言葉に出会える教材であると考えられる。

○（省略）

○漢文というと、苦手意識をもっている生徒が多く、「難しいから嫌だ。」という声を聞く。そこで始めにパワーポイントを用いて「論語」のクイズを行い、「論語」に対するイメージを「おもしろそう」「そんなに難しくもないのかも」というプラスのイメージに変えてから学習に入りたい。第1次で教科書に掲載されている5つの言葉を学習し、どのような場面にあてはまる言葉か、実際の場面を思い起こさせる。その中で、「論語」を身近な言葉として感じ取らせることができると考える。第2次では、学校図書館を活用し、心に響いてくる「論語」の言葉をさがす。見つけた言葉をカードに書いていき、どのような場面で支えとなる言葉かを考えた後、「こんな時にはこの言葉」と題した作品を書いていく。

本時は、「こんな時にはこの言葉」に書く言葉を図書資料からさがす時間としている。グループに複数の図書資料を用意し、同じ「論語」についての本でも、本によって説明の仕方や、表現の方法が違うことにも気づかせたい。心に響いてくる言葉を資料から見つけ、カードに書いていく。このカードは「情報カード」を応用したもので、参考文献の番号とページ、書き下し文、訳、コメントを書く欄がある。また、用意した資料については、参考文献リストを用意する。これは、1冊1冊書誌情報を生徒が書いていくと時間がかかるので、本時のねらいとする学習に十分時間をかけるためである。リストと照らし合わせながら自分が見ている本の番号と選んだ言葉の載っているページもメモしていく。生徒は1年次、2年次で情報カードの使い方を学習しているが、参考文献リストの番号と資料を照らし合わせる活動については経験が少ない。そのため、授業の始めに学校司書からリストの見方を説明し、活動がスムーズに進むようにする。

次時に取り組む「こんな時にはこの言葉」は全生徒分廊下に掲示する。友だちの作品を鑑賞すること

でより多くの論語にふれることができ、また、友だちのものの見方や考え方にふれることもできる。今回出会った「論語」の言葉は、友達のことや悩んだとき、勉強や進路のことや悩んだときなどに励ましてくれたり支えとなったりする言葉となると考える。「遠い時代の遠い国の言葉であっても、現代を生きる自分たちに通ずるものがある」と古典を身近に感じ、ものの見方や考え方を広げられるように単元を展開していきたい。

6 指導と評価の計画

次	時	目 標	主な学習活動	評 価			
				国語	読む	言語	評価規準(評価方法)
1次	1	1, 2年生で学習した漢文訓読のきまりを思い出し、理解して音読する。	①当時の時代状況などについて知り、教科書に掲載されている5つの言葉を音読する。 ②漢文訓読の決まりについて復習をする。 ③教科書に掲載されている1つ目と2つ目の言葉について内容を捉える。			○	【言】漢文訓読のきまりを理解して読んでいる。(観察)
	2	教科書に掲載されている5つの言葉を実際の場面と照らし合わせて考える。	①教科書に掲載されている3つ目から5つ目の言葉について内容を捉える。 ②5つの言葉が現在のどのような場面で使われているか考える。		○		【読】「論語」の言葉を実際の場面と照らし合わせて考えている。(ワークシート)
2次	3	「論語」に表れたものの見方や考え方に触れることを通して「論語」の世界に親しむ。	①「こんな時にはこの言葉」の説明を聞く。 ②図書資料から選んだ言葉をカードに書いていく。 ③グループで交流する。			○	【言】「論語」に表れたものの見方や考え方に触れることを通して「論語」の世界に親しんでいる。(ワークシート)
	4	「論語」を実際の場面に照らし合わせ、具体的な場面を想起しながら現代を生きる自分達に通ずる言葉として「論語」を感じ取り、その言葉に対する自分の考えをもつ。	①カードの中から「こんな時にはこの言葉」に書く言葉を1つ選ぶ。 ②「こんな時にはこの言葉」を書く。		○		【読】「論語」を実際の場面に照らし合わせ、具体的な場面を想起しながら「論語」を現代を生きる自分達に通ずる言葉として感じ取り、その言葉に対する自分の考えをもっている。(ワークシート)
3次	5	友達の「論語」と生活場面との結び付け方や、表現の工夫を考えながら作品を鑑賞しようとする。	貼りだされた友だちの「こんな時にはこの言葉」を觀賞する。	○			【国】友達の「論語」と生活場面との結び付け方や、表現の工夫を考えながら作品を鑑賞しようとしている。(ワークシート)

7 本時の学習（第2次3時間目）

(1) 本時のねらい

- ・「論語」に表れたものの見方や考え方に触れることを通して「論語」の世界に親しむ。

【言語についての知識・理解・技能】

(2) 本時の展開

学習活動	教師の支援（・授業者 ☆学校司書）	評価（評価方法）
<p>○本時のめあてと活動の確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「こんな時にはこの言葉」に書きたい言葉を資料からさがそう。</p> </div> <p>○「論語カード」の書き方の説明を聞く。</p> <p>○「こんな時にはこの言葉」に書きたい言葉の候補を図書資料から探す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見つけた言葉をカードに書いていく。 <p>○全体で情報共有をする。</p> <p>○再度、図書資料から言葉をさがす。</p> <p>○グループでカードを交流する。</p> <p>○次時の学習内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時では、「論語」に関するたくさんの図書資料にあたり、「こんな時にはこの言葉」に書きたい言葉をさがすことを確認する。 ・学習者がゴールをイメージできるように、第1次1時間目に紹介した、教師の書いた「こんな時にはこの言葉」を再度見せる。 ・実物投影機を用いて「論語カード」の書き方を説明する。 <p>☆参考文献リストについて説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気になった言葉があれば個数を問わず抜き出していくことを確認する。 ・少なくとも2枚は書くように促す。 ・☆言葉が決まらない生徒には、分かりやすい資料を薦めたり、「こんな時」の具体的なアドバイスをしたりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・コメントが書けている生徒のカードを2つ程度紹介する。 <p>☆図書資料の使い方の補足説明をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントが書けていない生徒は紹介したコメントを参考にさせ、再度コメントを考えさせる。 ・たくさんカードを書いている生徒は、まだ書けていない生徒を助けるよう促す。 ・友だちがどのような言葉を選んだのか、なぜその言葉を選んだのかを知ること、次時に「こんな時にはこの言葉」を書く参考にさせる。 ・次時は選んだ言葉から一つを選び「こんな時にはこの言葉」を書くことを確認する。 	<p>☆【言語についての知識・理解・技能】</p> <p>「論語」に表れたものの見方や考え方に触れることを通して「論語」の世界に親しんでいる。</p> <p>(ワークシート)</p>

(3) 本時の評価

	十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できるとされる生徒の具体例	支援を必要とする生徒への指導の手立て
言語についての知識・理解・技能	「論語」に表れたものの見方や考え方に触れることを通して自分の生活と結び付けて考えながら「論語」の世界に親しんでいる。	「論語」に表れたものの見方や考え方に触れることを通して「論語」の世界に親しんでいる。 (十分満足できる状況にするための手立て) その言葉を実際のどの場面で思い出したら励まされるか、誰にあげたい言葉か、など生活場面と結びつけるための視点をより細かく与える。	・マンガで表現されているものや、キャラクターを用いて説明されているものなど親しみやすい書籍や、簡潔で分かりやすい書籍を示し、その中から共感できる言葉を授業者と一緒にさがさせる。 ・資料を開きながら目次の見方を説明したり、1つの言葉に対し「こんな時」を具体的に提案したりしながら授業者と一緒にカードを書かせる。

7 研究協議の概要

参加者	校内 9名、校外 13名 計 22名
授業及び研究協議の概要	<p>〈授業の概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「論語」に関する書籍の中から生徒が「こんな時にはこの言葉」として紹介したい言葉を選んだ。情報カードを応用したワークシートにより情報を整理した。他校の学校図書館や市立図書館から資料を相互貸借したことにより、グループに5～6冊の資料を用意することができ、普段は学習意欲の低い生徒も漫画で描かれた本やイラストが描かれた本に興味を持ち、活動に取り組むことができた。 <p>〈研究協議の概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料が豊富で、資料にあたり言葉をさがすことを全員ができていた。 ・図書資料についての説明を学校司書がしており、役割が分担されていて良かった。 ・並行読書を実施することでより学習者の興味関心を引くことができるのではないかと指摘があった。